

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



ブドウ台木とフィロキセラ



- ブドウに**台木**を使う理由は複数ありますが、最大の理由は**フィロキセラ**（ネアブラムシ）対策です。
- ブドウは挿し木をすれば、台木を使わない自根でも栽培できます。しかし、根にフィロキセラという虫が寄生してブドウの樹を弱めます。
- **フィロキセラ抵抗性台木**を用いると影響なくブドウ栽培が可能となり、現在では全世界で普及しています。
- 1860年代のフランス（ブドウ栽培面積約**230万ha**、日本現面積1.7万ha）では当時主流であった自根樹のほとんどがフィロキセラにより**壊滅状態**に陥りました。
- 抵抗性台木による解決法を研究した**G.Foëx**の功績を称えてフランスのモンペリエには**乙女が老女を抱き起す銅像**が立っています。



モンペリエ農業科学高等教育国際センター内の記念碑
(wikipedia https://en.m.wikipedia.org/wiki/Gustave_Fo%C3%ABx)



シャインマスカットの開花異常



- 一昨年頃から**開花時に花冠が離脱しない等の異常症状**がみられます。
- そのような房は果粒となっても**肥大しない**で、**変形果**や**二重果**となってしまいます。
- この症状は開花前の**花蕾表面にスジがなく、丸くツヤがある**場合が多いので判別基準の一つになります（図）。**図 異常花蕾判別**（山梨県果樹園芸会発行山梨の園芸5月号）
- 本症状の根本原因は不明ですが当面の対策として以下が考えられます。
- まず、房づくりの時期を多少遅らせて開花異常の兆候を識別します。開花異常は**主穂先端部**に多くみられるので、異常症状が認められる場合は正常な**上部支梗**を使った房づくりに**変更**を検討して結実確保に努めます。

